

夏休み水環境セミナー

川を本格的に学ぶ

丸山 朝子
 梶 一成
 酒井 泰

1 はじめに

川の生き物と水質について学習し、水環境への理解を深めることによって、地域での自主的な活動の核となる人材の育成及び現在活動されている地域環境リーダーへの支援を図ることを目的とし夏休み期間に高校生以上を対象として3回シリーズでセミナーを開催した。

2 開催要領

2.1 実施日

平成 15 年 8 月 18 日(月) 20 日(水) 23 日(土)

2.2 場所

公害研究所、二子地先多摩川河川敷(多摩川教室会場)

2.3 対象

高校生以上、大人 応募者 22 名

2.4 広報など

- ・環境情報 7 月 1 日号、市政だより 7 月 2 1 日号
- ・市ホームページへの掲載
- ・チラシ配布
- 市民情報サービスより各区役所、市民館等
- 青少年科学館、図書館

3 実施内容

3.1 1 日目(8 月 18 日(月))

公害研究所 1 階研修室にて集合後、挨拶と互いの自己紹介をした。講義は水環境と水質について 15 分程度とした。その後の実習は底生動物の採取・観察について講義 20 分、底生動物観察実習 55 分の 75 分で行った。

3.2 2 日目(8 月 20 日(水))

多摩川教室現場で底生動物の採取・観察の指導を体験した。3つのグループに分かれて、受付での説明や道具の受け渡しの担当、川の中での底生動物採取の指導担当、顕微鏡での観察指導担当を順次体験した。

3.3 3 日目(8 月 23 日(土))

公害研究所 1 階にて 2 日目の実技の評価と反省について 30 分フリートークを行った後、90 分間で COD の分析を多摩川と平瀬川の試料について行った。質問やまとめ今後勉強したいことなどをその後話し合い終了とした。

4 実施課題

・セミナーの目的が自主的な活動の核となる人材の育成であることから、受講生の意識が高く、積極性が感じられた。受講生にとっては、水環境に関する幅広い知識が得られ、かつ理解度が向上したこと及びフィールドでの体験指導実習は、受講生にとって自信と新しい活力の源になったようである。

・学習フィールドとして「多摩川教室」を活用し、受講生が主体となってイベントの参加者に河川水質の話から実態顕微鏡による水生生物の検鏡の指導学習をした。受講生は、河川に生息している生物種類の多さに驚いていた様子であり、これらの生物が水質浄化に機能していることを実感していた。この結果、河川と生物の関わりを参加者へ伝える努力をしている様子がうかがわれた。今回のセミナーの成果である。

・再度今回のようなセミナー開催を希望する声もきかれた。主催者側としては、短時間に受講生に益多い講義を展開する内容を吟味する必要性、また終了後の受講生の活動源になりえる専門的な知識のみならず環境学習の基本的な理念等を伝えて行く必要性を感じた。

・講習内容は、河川水環境の変遷、汚濁のメカニズム及び新しい情報の提供と断片的であった。受講生が地域において自主活動あるいは参画活動時に活用できる適切なトピクスに係る教材(シラバス)の作成、適正な情報の提供を心がけたい。



